

日本でも ICAO 推奨の Runway Safety Team 設立実現を！

ALPA Japan AGE 委員会では、空港における Runway Safety Team (以下、RST) の必要性を以前より発信してきました(参照:[ALPA Japan ニュース 37-21](#)、[同 42-10](#) 等)。ICAO は 2015 年の 6 月に [Runway Safety Team Handbook Second Edition](#) を発行し、滑走路とその周辺における事故・インシデントを減らす為に RST の設立を強く推奨しています。過去の IFALPA AGE Committee において、RST が滑走路誤進入や逸脱といったインシデント抑止に対して効果的に機能しているという各国の報告から分かる通り、RST 空港の安全向上に不可欠なものとして機能し得ることが明らかとなっています。

Global Airport Runway Safety Teams – 327 Teams Reported to ICAO



< 世界の空港で展開されている RST(出典:ICAO) > (日本は空白地帯)

ICAO RST Handbook では、RST の必要な構成メンバーとして以下のように記載されています。

- a) aerodrome operators;
- b) air traffic services;
- c) commercial air operators;
- d) **representatives of flight crew familiar with the aerodrome;**
- e) members from the general aviation community (if applicable);
- f) technical experts of controller associations; and
- g) **technical experts of pilots associations.**

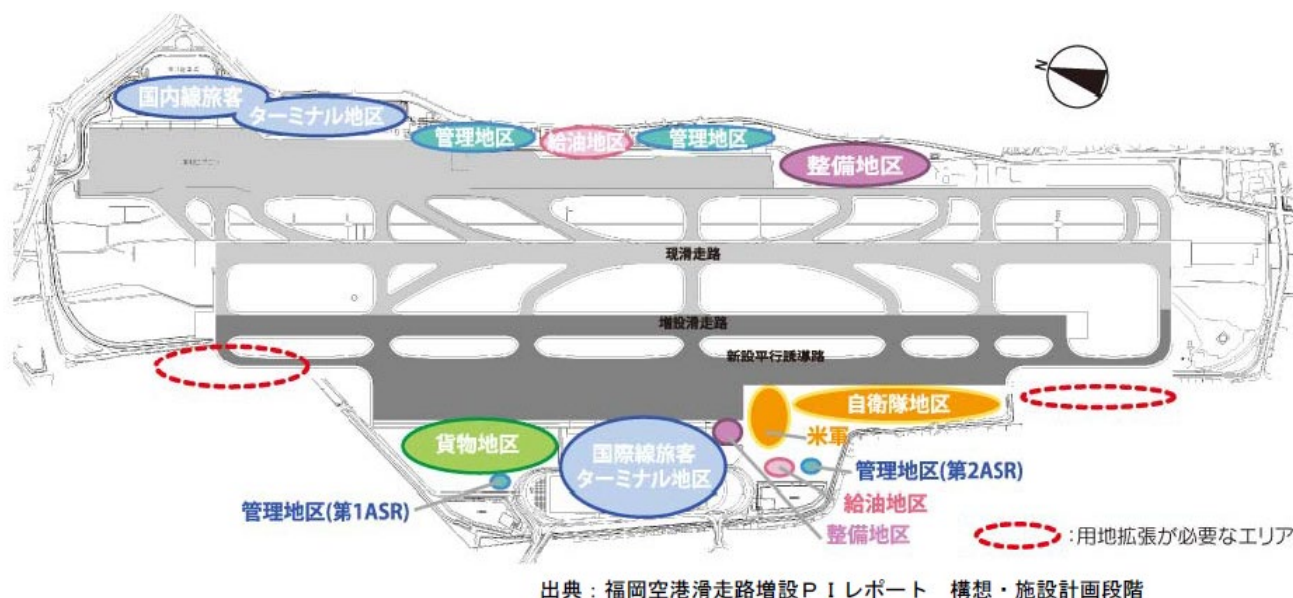


英語表記にて上述されました、d) のパイロットは航空会社から派遣されるケースがほとんどですが、そのパイロットが必ずしも「その空港に精通しているわけではないこと」、「十分な議論を経て出席しているわけではないこと」、「航空会社の意向に沿った発言をする可能性があること」、などが課題として挙がっています。そのため、ICAO では g) パイロット団体に所属する専門知識を持った者を構成メンバーに入れています。

日本国内では、成田、羽田、伊丹の各空港において「RST」という呼称の会議体が発足していますが、日本国内における「RST」は残念ながら ICAO RST Handbook で推奨されている組織構成とはなっていません。ICAO が目指している、「世界の全国際空港に RST を導入する」という目標を達成するためにも、1 日も早く ICAO RST Handbook で推奨される、真の RST が日本でも設立される事が強く望まれます。

《福岡空港において RST の設立が早急に必要です！》

福岡空港は、2025(令和 7)年に 2 本目の滑走路運用開始予定で工事が進んでいますが、限られた敷地ということもあって、現時点で、下図のようなレイアウトが予定されています。



誘導路名称、滑走路の運用方式(滑走路誤進入防止策)など、RST で取り組まなければならない内容が沢山あります。2 本目の滑走路運用開始前に十分な議論を行い、全てのユーザーにとって、安全で効率的な空港を目指して欲しいと強く願っています。

ALPA Japan AGE 委員会は、IFALPA と連携を取りながら、引き続き国内における RST 設立を働きかけていきたいと思ひます。

以上

ALPA Japan

検索

実施中!